



@幸せな贈り物

うつわの価値は 入っているもので 決定されます



人生も何が入っているかが、私の人生の本当の価値ではないでしょうか。

人は誰でも役に立つ人生を生きることを願っています。ある人が言うのに、最も役に立つ人生とは、使い道がないことを捨てて、役に立つことを所有した人生だということです。

問題は、何が役に立つことで、何が使い道ないことかということでしょう。

今でもひとつの出会いが思い出されるのですが、それは使い道がなかった人生が、今は堂々と役に立つ人生の主役として生きていっている姿があまりにも感謝であるからです。

その理由は次のとおりです。

ある日、あるお母さんから連絡がきました。

自分の娘が学校でずっと問題を起こして、今回も事故を起こして警察署に行ってきたが、親としては、これ以上、どうしようもないので、一度だけ会ってやってくださいということでした。

会うことに定めた時間、子どもはお母さんの手に引っ張られてやむを得ず連れられてきた姿。

しばらく、私の仕事を終わらせるのを待っている間、少しの間、その子の行動を見ました。

続く悪口、まわりの子どもたちに対する荒々しい行動…

本当にお母さんの話のように、学校で話す「不良」の姿そのままだったと言うべきでしょうか。

いよいよ、その子と二人だけの時間になりました。

牧師である私に会って聞かなければならない話は、よく知っていると予想したように、その子はずっと他のことをしました。

「スミン、私はあなたがなぜいつも悪口を言うのか知ってるよ」

「ええ?、私がなぜ悪口を言うのか知ってるの?」

その子は全く予想できなかった話に直ちに反応をしました。

「そりゃ、当然分かるよ。ここにこの水さしを見なさい。私がこの水さしをひっくり返したら何が出てくる?」

「水が出てくるでしょう」

「なぜ?」

「だって、水さしには、水が入っているから水が出てくるんです」

「それなら、ここにコーラが入っているならば何が出てくる?」

「コーラが出てくるでしょ」

スミンは、無愛想に答えながら、私をじろじろ見つめました。

私もなにも言わず、しばらくの間、その子を見つめていました。

「なぜ同じ水さしなのに、出てくるのが違うのだろう?あなたも知らない間に、あなたの中に悪口がぎっしり詰まっていて、だれかが少しだけあなたを触るだけでも悪口が出てくるしかないということを私は理解しているよ。それで、あなたが悪口を言うからといって悪いと思わないよ」

スミンは予想できない対話に、ますます耳を傾ける姿でした。

誰もそのような形で対話をしたことがなかったのですから。

「そして、あなたの中に悪口がぎっしり詰まるようになったのは、あなたの誤りでないよ。たぶん、あなたのまわりにいる多くの友だちが悪口を言う子だろう。そして、今まであなたの親の姿を見ながら、またあなたの親から悪口を多く聞いたのだろう。それがあなたも知らない間に、あなたの中に積もるようになったのだよ」

「スミン、あなたの長所、五つだけ私に言ってくれる?」

「私は長所はないよ!」スミンははっきりと答えました。

そして、しばらくして、このように尋ねました。

「短所は尋ねないで。私は短所しかないの」

しばらくの間、両者に少しの間の静寂が流れます。

「スミン、このコインを見てね。前面だけあるのかな。たしかに裏面もあるよね。あなたが短所が多いということは、ひっくり返してみれば長所も多いということなんだよ。ただ、その長所を見つけられなかったということが率直な返事ではないのかな。両親はあなたが多くの問題を起こしたと言うけれど、私はそのように考えないよ。問題をたくさん起こせるということは、それだけ多くの可能性も持っているということになるから。だから、私はむしろあなたに期待できるよ」

スミンは、何も言わずにうなずきました。

「スミン、なぜ神様が私たちを会うようにされたのだろうか?私はあなたを見ながら、神様がどれくらいあなたを愛しておられるのか分かるよ。今からあなたの心の中に今まで味わえなかった美しい人生のこぼれを満たしてみよう。そして、あなたが見つけれなかったあなたの人生のかくされた長所を一つずつ探してみる旅行をいっしょにしないか。それで、今まで味わえなかったあなたの人生の美しさと長所をもって新しく始めよう。私が力になってあげるから」

その一回の出会い以後、スミンは完全に変わりました。ある大学を卒業して、立派な社会人になって、堂々とまた他の子どもたちを育てています。スミンに新しい人生を始めるようにしたその愛、それがまさに神様の愛でした。

人生を変化させるその何か、人間の根本を回復して、まことの幸せの主人公として生きていくようにさせる人生のまことの所有、それは何でしょうか。

欲望を満足させることから来る幸せ、欲望がなくなることからくる幸せは、また別の相対的な飢え渴きを呼び起こすはじまりに過ぎないだけで、人生の根本を変化させるまことの所有ではありません。

神様のみことばに耳を傾けてみてください。

「人は、たとえ全世界を手に入れても、自分自身を失い、損じたら、何の得がありません。」ルカ 9:25

「そして人々に言われた。『どんな食欲にも注意して、よく警戒しなさい。なぜなら、いくら豊かな人でも、その人のいのちは財産にあるのではないからです。』」ルカ 12:15

「しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。」ヨハネ 20:31

「イエスは彼に言われた。『わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。』」ヨハネ 14:6

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのこぼれを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。」ヨハネ 5:24

「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。」ローマ 8:1~2

今日、この贈り物が大切なあなたの人生を変化させて、世の中を変化させることができます。

聖餐 その十字架の愛と勝利

信者と未信者はいったい何が違うのでしょうか。生活を送っていく姿も、人生の中に体験するようになる生老病死も同じように思えます。ところで、聖書は4つのことが明確に違うと語っています。**第一に**、霊的な戸籍の所属が違うと語っています。すべての人間が神様を離れた以後、やむを得ず悪魔の子どもとして、地獄の民として生きていくしかなくなったのですが、イエス・キリストを信じた後には、神様の子どもとして、天国の民として生きていくようになることを語っています。(1ヨハネ3:2、コロサイ1:13) **二つ目**、身分が違います。この世に数多くの方がいますが、自分の姓があって、家系図があるように、人生にも確かに別の身分があることを語っています。創世記3章に現れた本来の人間が神様を離れた原罪事件以後、人間は罪の奴隷になって生きるしかない存在に転落しました。神様は、イエス・キリストを信じることによって義の奴隷として生きることが出来る道を開いてくださいました。(ローマ6:22) **三つ目**、私の生活の状態が違います。未信者の時には、罪と罪過で死んだ姿で、霊的世界を知らずに生きていたのですが、イエス・キリストを信じた後には、霊的世界を知ることが出来る永遠のいのちを所有した生活を味わうようになります。**四つ目**、私の人生を導く主権者が違います。未信者だった時は、世の中の流れに従って、私も知らない間に暗やみの勢力に従っていきしかなかったのですが、神様の子どもになった以後には、神様が聖霊でともにいてくださって、私の生活を最も祝福された道に導いてくださるようになります。神様は、すべての人間がこの祝福を受けることを願っておられます。それで、イエス・キリストを信じて救われるのには、何の条件もありません。「私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されていて、その義は、信仰に始まり信仰に進ませるからです。『義人は信仰によって生きる』と書いてあるとおりです。」ローマ1:16~17

神様の愛の結晶が、イエス・キリストの十字架の死と復活です。そして、これを記念して感謝するのが聖餐の核心です。イエス様の死は単純な死でなく、すべてを終わらせてしまった死を意味します。人間が絶対に解決できない罪と呪いの問題、地獄に行くしかない暗やみの権威、私たちの目に見えないように働くサタンの権威を完全に十字架で打ち砕いてしまわれました。そして、この聖餐はキリストの十字架の死と復活を通しておさめた永遠な勝利を記念して、それを私たちの霊的な糧とすることです。私たちの功労でなく、恵みでいつも育って行くようにされるのです。この救いの恵みをずっと味わうことが聖餐の祝福です。

「私は主から受けたことを、あなたがたに伝えたのです。すなわち、主イエスは、渡される夜、パンを取り、感謝をささげて後、それを裂き、こう言われました。『これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行ないなさい。』夕食の後、杯をも同じようにして言われました。『この杯は、わたしの血による新しい契約です。これを飲むたびに、わたしを覚えて、これを行ないなさい。』ですから、あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです。」1コリント

11:23~26

神様の子どもになる

受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださったキリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの

毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかさされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



イラスト_キム・メルム

なぜ人々は 教会に 行くのか？

世の中には、多くの建物があって、そのうちには宗教の建物も多い。古典的な雰囲気を持った威厳がある建物もあるかと思えば、建物がある片隅や地下に位置した教会もたくさんある。ところで、信徒は教会に行く。立派でない建物に位置しており、雰囲気も良くないと見えるのにもかかわらず、彼らはなぜ教会に行くのであろうか。

中東戦争中のイラクに米軍が駐留していたとき、バグダッド空港近所にペガサスという軍人食堂があった。他の軍部隊と同じ食費で出てくるのにもかかわらず、その食堂は他の軍人食堂とは違った素敵な食べ物を整えて出すことで有名だった。その食堂運営者のフロイドは、すでに25年も軍隊で料理人であって引退したが、また軍で食堂を引き受けるようになった。彼は軍隊生活の困難と、疲れとだるさを誰よりよく知っている人であり、一日に18時間ずつ一週間に7日ずっと働く軍人の大変さを知っていた。さらには、イラクではいつどこで命を失うかも知れない危機の瞬間を生きていた。それで、彼は激動と混乱に陥った軍人に一握りのオアシスのような休息空間を与えたかったということだ。ペガサス食堂は、一般食堂とは別に兵士たちの故郷の家のように、各種のスポーツのバナーで覆われるようにして、窓は金色の装飾で飾り、テーブルはふさがついた緑色テーブルクロスで覆った。天井は、ものさびしい蛍光灯の代わりに巨大な天井ファンと、こじんまりした光を出す電球に変えた。厨房のメンバーは、非常に大きくて高い料理人用の帽子をかぶって、同じ食材だが、果物を備えて選び出し、見やすくして、同じ食べ物でも薬味と味を違うように準備して、それにふさわしいデザートとケーキで味をよりよくするので、軍隊の食べ物の限界を越えていた。したがって、そこで食事をしたい兵士は、バグダッドの市内から、米軍が保護する特別警戒地域であるグリーンゾーンを離れて、悪名高く危険な道をすぎたペガサス食堂

を訪ねたりもしたという。

教会は、まさにこのようなところと同じだ。世の中は、イラク戦争の苦しみとは比較もできない霊的戦場だ。人々は、一週間の間ずっと24時間、霊的問題と取り組みながら、自分の生活を支えていくのに多くの気力が消耗して疲れている。それで、イエスは「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのところに来なさい」と言われ、苦しい人生を招いているのだ。はたして、教会はこういう労苦に答えを与えられるだろうか。その答えは話ではなく、みずぼらしい教会を尋ねて、慰められた個人からその答えを探さなければならない。教会は、宗教的修行をする所ではなく、イエスをキリストと信じて救われた神様の子どもが礼拝する福音がある所だ。教会は、建物の規模と大きさで話すのではなく、教会が持っている属性、すなわち神様の救いの真理を信じる信仰の場として説明される所だ。教会はまず休むことができる現場だ。これは霊的安全性だ。世の中のその何とも変えられない人生の解答を味わう所が教会なので、他の答えが必要なくなるのだ。それで、人々は教会に行く。世の中が何と話そうが、ひょっとして教会を迫害することがあっても、人々が教会を守って教会を生かそうとする重要な理由がまさにそれだ。したがって、教会はキリストの奥義を持ったところだ。神様に会う唯一な道で、人生が解決できないあらゆる罪の解決を受ける所で、人生の失敗の呪いの根源者であるサタンを打ち砕く所だ。キリストによるその驚くべき救いの事実を、いつも確認して確信する現場であるから、人々は今日も教会を訪れるのだ。

チョン・ヒョングク（福音コラムニスト）

* 相談したい方はこちらまでどうぞ